令和８年３月 31 日

令和７年度

事業報告

社会福祉法人　シルヴァーウィング

特別養護老人ホーム　新とみ

短期入所生活介護　新とみ

通所介護　新とみ

ウィング訪問ケアステーション

Ⅰ． 施設関係

１．特別養護老人ホーム

（1）はじめに

本年度は定員 40 名に対し、**36.5 名**の入所者数でした。月平均利用者実人員は **37.5 名**と、昨年と比較し **1.0 名の増加**です。長期入院、看取りなどによる退所者は **9 名**、新規利用者は **10 名**です。年度末現在の利用者の平均年齢は、男性 **85.3 歳**、女性 **88.0 歳**であり、男女合計の平均年齢は **87.2 歳**です。なお、特養の年間平均稼働率は **93.73%**です。令和 6 年度 91.05%に比べると、稼働率は **2.68%上**がっています。

表１　　前年度との比較　　定員 40 名

項　　目	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
平均年齢	85.8 歳	85.8 歳	87.2 歳
平均介護度	3.98	4.04	3.85
年度末平均人数	37 人	38.5 人	39 人
延べ定員数	14,640 人	14,600 人	14,600 人
１日平均利用者数	35 人	36.5 人	37.5 人
稼働率	87.5%	91.05%	93.73%

表２　　退所者　令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日

退所者	人　数	理　　由
死亡	2 人	入院による死亡
死亡	5 人	施設での看取り
入院	2 人	療養型病院へ入院
その他	0 人	家族転居による在宅復帰

(1)入・退所の現状

①入院以外は、施設での看取りを行い、看護師・介護職・嘱託医・家族との連携を密に長く過ごしていただいた居室にて、最期を迎えてもらうことができました。
本年度は 5 名の看取りでお見送りをしました。ご家族についても年々看取りへの希望が高まっている状況です。

②新規利用者は 10 名でした。新規利用者については、入所後、環境の変化による心身の変動が見られることが多く、様子観察に注力しました。比較的施設の環境に慣れていただけた利用者が多く、ご家族と連携をとりつつ、一人ひとりの生活の形を整えていきまし

た。

③ 新規利用者の声かけにおいては、中央区で入所調整したリストに沿って声かけをするシステムになっているが、入所に時間がかかるケースが多くなっており、自宅での介護を希望するご家族も増えているのが現状です。本年度の特徴として、声かけから入所までの流れの中で、要介護 4、5 の方ほど断られるケーズが多くなっており、要介護 3 の方の入所が増えています。介護度の重い方については「現在の施設(老健等)でおちついているので当分入所は考えていない」といった断わりが多く、一方要介護 3 の方については「在宅での介護は困難なため、現在入所中の施設(老健等)からそのまま入所を希望する」という意向が多い。要介護 3 のレベルにおいては、身体的には自立度が高いが、認知症状が重いという方が多く、在宅においては寧ろ要介護 4、5 の方よりも介護負担が大きいと考えられます。

（2）事業実績について

利用者の平均介護度は令和 6 年度の 4.04 に対し、令和 7 年度は **3.85** となっています。(別表 2 参照) 特養での対策としては、健康管理下で一層の介護の充実を図るとともに利用者の事故や病気のための入院を極力抑えることです。そのため

①健康管理の徹底、衛生管理の徹底、日常生活での異常に対する早期発見・早期対応の徹底。

②ハード面の充実として、インフルエンザやノロウィルスの感染防止他、感染拡大の新型コロナウィルスへの防止策として、空気清浄機他、施設全体の除菌剤の配置などを強化しました。

③嘱託医による利用者の心身の定期的な健康管理として

・定期的な健康診断、予防注射の徹底による感染症対策+

・精神科医による精神面のケア、認知症状の緩和あ

・歯科医、歯科衛生士の定期的な往診のもと、口腔内の衛生管理による誤嚥性肺炎予防、嚥下機能の維持

その他、言語聴覚士が機能訓練に加わり、嚥下リハ、言語リハに注力しました。

多職種連携によるケアの体制は、今後も更なる充実を図っていきます。

（3）サービスの内容について

本年度は引き続き、食事、入浴、排泄、接遇といった介護の基本業務をしっかりと行うことはもとより、身体拘束廃止、虐待防止、感染症防止、防災、安全対策、環境整備等に取組みました。

レクリエーションやリハビリテーションの充実ということでは、デイサービスと協働してのレク活動に力を入れ、利用者の日常生活にうるおいとやすらぎとかがやきが得られるよう努めました。本年度は外部ボランティアとのふれあいの機会を増やし、心身の活性化を図りました。

リハビリテーションは、機能訓練担当の理学療法士を中心に、他職種との協働により、

身体、嚥下、言語等の機能面においてより充実したリハビリを実施することにしました。自立支援を目的とし、歩行訓練等の身体リハから言語リハにいたるまで、一人ひとりの個別性を尊重した、きめ細やかなリハビリに取組みました。

表３　　レクリエーションにおける効果

プログラム	心身機能への効果
音楽療法	唱歌、懐メロ等は、認知症状の緩和や精神面への良質な刺激となっている
セラピードック	月に２回のセラピードックは、利用者に寄添うことで癒しや、リハビリの効果をもたらせている
リハビリヨガ	心身のしなやかな動きは、自然に呼吸法を体得できる
書道・そろばん	昔、覚えのある方は自然に筆が動き、指が動き、モチベーションが上がってくる
チェアエクササイズ	身体を動かし、自由に伸び伸びと身体を表現でき、終わった後も、爽快感が残っている
アロマセラピー	アロマの香りを楽しみながら、五感に刺激を与えることで感性が豊かになってくる
コミュニケーションロボット・パロ、アイボ・パルロ・ペッパー	パロとの触れ合いにより、認知症の不安感、不穏を緩和してくれる。アイボは、様々な会話を引き出すきっかけになり、精神面の活性化が見られる
ベランダ菜園	認知症予防プログラムのひとつ。植物を育てることにより、心身への安定と、良質な刺激をもたらせる。

セラピードッグの様子



チェアエクササイズの様子



２．短期入所生活介護

（１）はじめに

ショートステイはキャンセルや特養の空床があり、利用する立場からすれば昨年に続き比較的利用しやすい状況でした。区内の方については、最長で３０日利用を基本としつつ、抽選から漏れた方についても、急なキャンセルや特養利用者の入院により空いたベッドをより多くの方に利用していただくため、FAX などで空き情報をタイムリーに提供しています。毎月、区外の事業所へ案内を出していることなどから、区外の方の利用も多く、かなりの成果をあげています。

別表 10 に示してあるように、特養・ショート合計の年間稼働率は、前年度 **103.28%**に対して令和 7 年度は **101.81%**と減少しています。ショートステイ単独での年間稼働率は、**155.71%**であり、昨年度より **29.13%減少**していることから、特養の稼働率が **2.68%**上昇しているため、ショートステイのベッド稼働率を減少させたと言えます。

① 周辺環境の変化

区内の老健については、入所期間が 1 年間に延長となったことで、在宅におけるショートステイのニーズに影響が顕著である。

② 地域の課題

・認知症居高齢者の健康管理　　食事・入浴・服薬等
・認知症高齢者の徘徊・火の不始末等
・独居高齢者の引きこもりによる認知症の進行
・高齢者世帯における体調管理
・高齢者世帯、独居高齢者の金銭トラブル

周辺環境の情報収集・地域の課題を分析し、ニーズを抽出することが重要です。緊急ショート、医療的対応等、多様なニーズにいつでも対応できるだけの層の厚い体制づくりをし、利用者の増員を図っていきます。

表４　　前年度との比較　　定員 6 名（空床利用）

項　　目	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
年度末平均年齢	85.0 歳	84.5 歳	84.5 歳
年度末平均介護度	3.40	3.37	3.51
年度末平均人数	40 人	35 人	33 人
延べ定員数	2,196 人	2,190 人	2,190 人
１日平均利用者数	13.5 人	11.1 人	9.4 人
稼働率	224.73%	184.84%	155.71%

（２）サービス実施状況

送迎：施設～利用者宅の送迎（ドア ツウ ドアの実現）

エレベーターのない団地等の集合住宅では、階段昇降機(介護ロボット)を

活用し、歩行困難な利用者の送迎を可能としました。本年度も 6 名の利用者に活用しています。

介護：身体の状況に応じた食事介助・排泄介助・おむつ交換・体位交換・施設内の移動の介助。

食事：事前の面接時に確認し、身体の状況に適した食事を提供しています。

入浴：週３回以上。身体の状況に応じ機械浴・介助浴・一般浴にて必要な介助を行なっています。

個別機能訓練：小集団訓練の他、希望される利用者には、機能訓練士による個別機能訓練が受けられます。その他、レクリエーション・音楽療法・セラピードッグ等。

健康管理：毎日のバイタル測定と日々の服薬管理等の健康管理・指導

胃ろう、ストーマ、インスリン、バルーンカテーテル、在宅酸素・喀痰吸引等の医療的対応も実施しています。

（3）サービスに関する苦情・相談

苦情・要望については、速やかに受付票に記録し、誠意を持って対応し解決いたしました。

（4）一年の状況と今後の課題

ここ数年の特徴として

① 2ヶ月前の申込みが減少

ショートステイの申込みは通常 2 ヶ月前を基本としているが、家族の生活スタイルの変化に伴い、１ヶ月前頃より徐々に増えている傾向です。本年度も緊急ショートの申込みが多くありました。

② 地域、在宅の課題への対応

在宅における生活スタイルが様々なように、ニーズにおいても多様化してきています。地域・在宅における課題が、そのままショートステイ利用につながっていースが多く、緊急ショート利用が顕著に増えています。

その一方で、区内の老健が 1 年間入所期間を延長したことで、ショートステイのニーズに影響が出ています。今後、新たなニーズを開拓することが急がされます。

在宅における利用者、家族を支えるためのショートステイの役割は、今後もますます重要となるでしょう。そのためには、いつでも対応できる体制づくりと、職員への教育が不可欠です。

３．通所介護

（1）利用者の状況

①リハビリニーズへの対応

年齢、性別に関係なくリハビリへのニーズは高く、デイサービスへの目的のひとつでもあります。在宅生活を維持していく上で、心身機能の維持、日常生活動作の維持は重要であり、機能訓練士のみならず、看護、介護、相談員が連携してニーズに対応しています。

③ 朝食サービス～夕食サービスまで対応

食事サービスにおいては、本年度も朝食サービス、持ち帰り弁当、夕食サービス等利用への対応を行い、独居、高齢者家族、就労家族等への支援に務めました。
本年度は、特に就労中の家族からのニーズが顕著であり、朝食から夕食までの対応が多くありました。利用者様のニーズからご家族のニーズまで、幅広く対応いたしました。

④ 医療的対応について

前年度同様、本年度も医療的対応を必要とする利用者が多くいました。胃ろう、インスリン、バルーンカテーテル、在宅酸素、喀痰吸引、褥瘡処置、ストマ交換、ネプライザー等。これら医療的対応に応じるため、看護師 2 名体制をとり、手厚いケアに務めています。今後も医療的ニーズの増大は想定され、デイの職員においても知識とケアの質の向上を図ることが課題です。また、訪問診療を利用している利用者が 7 割となり、デイの看護師、相談員と、居宅ケアマネ、訪問診療医、訪問看護師との連携が密となっています。

令和 7 年度の利用実人員は別表 8 のとおり **1,011 人**、利用実人員は前年度 **1,150 人**と比べて、**139 人**減少、稼働率は **69.73%**と昨年より **5.14%**下回っています。延べ利用数は、利用者一人あたりの利用回数が月平均 **8.56 回と**なり、前年よりも約 **5.9% 増加**しています。利用者の平均年齢は別表 7 のとおり男女合計の平均では **83.1 歳**となっています。内訳では男性 **79.3 歳**、女性 **85.1 歳**で、前年よりも低くなっています。平均介護度は **3.15** と、前年より低くなっています。

新規利用者においては、医療的ニーズ、在宅における介護者の介護力の低下、家族の就労継続、リハビリ、入浴希望等、様々な理由による申し込みがあります。
デイサービスに係わる送迎利用率は **99.6%**、入浴利用率は **85.0%**となっています。
前述したとおり、特養・ショートに関しては既に 100%以上の稼働率であるので、施設の収入を伸ばすにはデイサービスの稼動率を上げることが急務です。

表 5　前年度との比較　　定員 34 名

	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
年度末平均年齢	83.4 歳	83.8 歳	83.1 歳
年度末平均介護度	3.17	3.20	3.15
実人数	1,122 人	1,150 人	1,011 人
延べ定員数	12,414 人	12,410 人	12,410 人
1 日平均利用者数	24.4 人	25.5 人	23.7 人
稼働率	71.5%	74.87%	69.73%

（２）運営状況

①行事の実施

開設当初より、利用者の方に生活の豊かさとメリハリを持っていただくために、菖蒲湯や柚子湯など季節に応じた日課活動を取り入れるとともに、特養と合同でイベントを開催しています



お花見





ひな祭り



お正月





すいか割り



盆踊り



濱町音頭保存会の皆様と



ベリーダンス



築地ライオンズクラブ主催のクリスマスパーティ

表 6　　主な行事

4 月	・お花見　　小人数づつ京橋公園へお花見に行った。利用者のイキイキとした表情に、季節感を味わうことの大切さを思う。・
5 月	・5 月 1 日～7 日まで、菖蒲湯祭り　菖蒲の香りに季節感を堪能した。 ・企業ボランティアの方々が企画したレクリエーションに、利用者様も盛り上がった。
6 月	・紫陽花鑑会　　苑内庭に開花した紫陽花を鑑賞、皆で季節感を楽しんだ ・大正琴演奏会にて季節の歌を演奏してもらい皆で初夏を楽しんだ
7 月	・七夕さま　　利用者・職員ともに短冊つくりを楽しむ。コロナ収束を祈り、短冊を笹の葉に飾り付けし、涼やかに七夕さまを送った。 ・スイカ割り大会　　デイ・特養合同のスイカ割りは、夏の風物詩として恒例となった。大会後のスイカのおやつは格別である。 ・浜町音頭保存会の方々による、踊りと歌の華やかな会を開催。利用者様も踊りの輪に入り、浜町音頭を楽しんだ。
8 月	・盆踊り大会　　地域ボランティアの協力のもと、盆踊り大会を開催した。
9 月	・敬老の日　　利用者、職員と敬老の日をお祝いした。久寿玉を長寿の利用者に割ってもらい、健康寿命の大切さを皆で話し合うひと時を設けた。
10 月	・運動不足解消のため、運動会を開催　ボールゲームに盛り上がった。
11 月	・紅葉狩りは紅葉した葉を使って、工作を楽しんだ。 ・アロマテラピー
12 月	・クリスマスコンサート　　職員による演奏会を開催。ハンドベル・ホルン・ピアノ等、様々な音色の演奏会は大変好評だった。 ・恒例の築地ライオンズによるクリスマス会。歌手による歌のプレゼントは利用者の心をなごませてくれた。
1 月	・新年会　　利用者、職員との新年会は、すごろく、福笑い等、伝統的な正月遊びに興じた。 ・ビンゴ大会を開催　　景品のお年玉袋を抱えた利用者の笑顔がイキイキと映えた。
2 月	・2 月 3 日の節分は、職員が鬼になって利用者のフロアを駆け巡った。 ・運動不足を防止するため、運動レクを増やしていく。
3 月	・家族会については、再開を検討中

⑤ **送迎について**

階段昇降機(スカラモービル・J-マックス)を活用することにより、エレベーターのない団地等の集合住宅に住む利用者のデイサービス利用を可能にすることができました。階段昇降機の支援を必要とする利用者は徐々に増え続け、毎日 2 名～4 名の利用者

の昇降を行っています。
送迎においては、中央区他、江東区、港区、千代田区、墨田区まで実施しており、99.1 の送迎率となっています。

⑥ **入浴について**

デイサービス利用理由の大きなひとつとして入浴があります。その期待に応えるため希望者には基本的には毎回入浴を提供しており、入浴利用率は 87.1%です。
身体状況に応じた入浴形態で対応しています。皮膚の異常、バイタルの変動等、入浴時に気づくことが多く、看護師が 2 名体制で対応しています。

本年度は、新たに 2 種類の入浴機器を導入しました。「馬主協会」「赤い羽根共同募金会」の助成を受け、ドーム型ミスト浴「アラエル」、最新式のチェア浴「ライラック」は、古いチェア浴と入れ替えました。どちらも高齢者の皮膚や身体への負担が少ない、次世代型の入浴機器です。

ドーム型ミスト浴「アラエル」






最新式チェア浴「ライラック」





⑦ **機能訓練**

機能訓練士による個別機能訓練を実施しています。リハビリテーション病院を退院後に通われている利用者も多く、身心機能の維持に努めています。歩行アシスト、免荷式歩行器ポポ、ウォークトレーニングロボといったリハビリ・ロボットを活用しながらの訓練は、利用者のモチベーションも向上し、リハビリ効果を見せています。

４．特養・デイサービス合同

(1)各種委員会

各種委員会は役割と人員を常に見直し

①年中行事委員会　②栄養委員会　③身体拘束廃止委員会　④排泄・褥瘡委員会
⑤ケアプラン委員会　⑥感染症対策委員会　⑦事故防止対策委員会　⑧防災対策委員会
⑨リハビリ委員会　⑩環境・口腔ケア委員会　⑪安全・衛生委員会(介護職のための)
⑫生産性向上推進委員会

(2)行事

四季折々の各種行事は、3 階フロアを利用して、特別養護老人ホーム・短期入所・通所介護利用者合同で実施する形をとり、年間を通して各種行事に取組みました。

(3)防災訓練

防災管理者及び京橋消防団には、現在 1 名の職員が入団しています。新富町会の防災訓練に参加するなど、防災への知識・技術の向上に務めました。新規に採用された職員には、消防機器訓練を随時実施しています。さらに、京橋消防署への研修参加の他、地域等の協力を得て、毎月 1 回「震災・消防訓練」を実施しています。

(4)職員研修

・4 月～3 月：毎月 1 回　　本年度もオンライン研修を実施しました。
ZOOM を使うことで、法人全施設とつながることが可能となり、同時刻に一斉に研修を受けることができるようになったことは、コロナ禍での大きな収穫です。
・ネット配信サービスを活用した「e ラーニング研修」を導入。職員が自分のペースに合わせて、希望するプログラムをいつでも受講することができるというメリットがあります。

表 7　　資格取得等に向けた職員研修(令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月)

研　修　名	特　養	通　所	訪　問
初任者研修	0 人	2 人	2 人
実務者研修	1 人	0 人	0 人
介護福祉士資格取得研修	0 人	0 人	0 人
腰痛予防を考慮したオムツ交換勉強会	15 人	2 人	2 人
権利擁護：虐待防止研修	1 人	1 人	0 人
口腔ケア研修会	2 人	1 人	1 人

表８　　社　内　研　修

No.	名　称	開催日	参加人数	実　績
	オンライン研修 18:00～19:00	令和７年４月初～ 令和８年３月末	特養　デイ	講師：勝野顧問 常勤・非常勤対象
3-1	高齢者虐待防止に向けた取組み	4/14	18 名	特養４名・デイ４名・訪問１名 栄養士１名・機能訓練士２名 事務2名　相談員2名　施設長１名　ケアマネ１名
3-2	リスクマネジメントについて	5/12	17 名	特養４名・デイ５名・訪問１名 栄養士１名・機能訓練士２名 事務２名　相談員１名　施設長１名
3-3	感染症対策について	6/9	16 名	特養３名・デイ４名・訪問１名 栄養士１名・機能訓練士２名 事務2名　ケアマネ1名　施設長１名　看護師１名
3-4	脱水・熱中症・水分補給について	7/14	18 名	特養４名・デイ４名・訪問２名 栄養士１名・機能訓練士２名・相談員１名・事務２名・ケアマネ１名・施設長１名
3-5	特別養護老人ホームにおける褥瘡ケアについて	8/11	21 名	特養３名・デイ名・訪問１名 栄養士１名・機能訓練士２名・相談員１名・看護師２名・事務２名・施設長１名
3-6	看取りについて	9/8	15 名	特養３名・デ３名・訪問１名 栄養士１名・機能訓練士１名・ケアマネ１名・相談員１名・事務２名・施設長１名・看護師１名
3-７	新型コロナウィルス等の感染症対策について	10/13	18 名	特養４名・デイ４名・栄養士１名 機能訓練士２名・ケアマネ１名 相談員１名・事務２名・施設長１名・看護師２名
3-8	高齢者虐待防止に向けた取組み	11/10	22 名	特養４名・デイ６名・栄養士１名 機能訓練士２名・ケアマネ１名 相談員２名・事務２名・施設長１名・訪問２名

3-9	事故防止ついて	12/8	17	特養 4 名・デイ 3 名・訓練士 2 名・ケアマネ 1 名・相談員 2 名・事務 2 名・施設長 1 名・訪問 2 名
3-10	認知症高齢者への理解とケア	1/12	22 名	特養 4 名・デイ 5 名・栄養士 1 名・機能訓練士 3 名・ケアマネ 1 名・相談員 2 名・事務 2 名・施設長 1 名・訪問 2 名・看護師 2 名
3-11	新型コロナウィルス及びインフルエンザ等の感染症対策について	2/9	17 名	特養 3 名・デイ 4 名・栄養士 1 名・機能訓練士 1 名・ケアマネ 1 名・事務 2 名・名
3-12	特別養護老人ホームにおける看取り介護について	3/9	16 名	特養 3 名・デイ 5 名・栄養士 1 名・機能訓練士 2 名・ケアマネ 1 名・看護師 1 名・事務 2 名・施設長 1 名・
3-13	新人研修 認知症高齢者への理解とケア 事故防止への取組み 身体拘束廃止・虐待防止への取組み	4/10・7/31 1/25・3/26	6 名	特養　　4 名 デイ　　2 名

（6）ボランティア・実習生の受け入れ

地域交流、デイサービスの日課活動の潤活化および初任者研修の実習の場として受け入れをしています。

定期的なボランティアとして書道ボランティア、傾聴ボランティア等が年 12 回。その他、デイでは地域の方や、外国の方を含めたボランティア団体が利用者の話し相手、フロアの手伝いボランティアとして定期的に訪問してくれています。

本年度は実習生の受入れ 10 名、職場体験 3 名、、インターンシップ 13 名の受入れがありました。

実習生、インターンシップ、ボランティアとの交流は、日頃触れることの少ない若年層との世代間交流として、利用者一人ひとりに良質な刺激をもたらせる効果があるため、積極的に受け入れていきます。

表 9　　令和 7 年度・実習生等の受け入れ

項　　目	人　数（延）
介護福祉士取得	0 人
教員免許取得希望者介護体験	64 人

職場体験	2 人
インターンシップ	15 人
小・中学生ボランティア実習	5 人
イナッこ教室ボランティア	6 人
春休み福祉体験合宿	0 人

(7)技能実習生の受け入れ

本年度は、特定技能実習生の受入れは、

(8)本年度の取組みについて

◆特養・デイ合同

期　間：令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月末

日付	項目	対応内容
4 月 21 日	中華人民共和国山東省：淄博市政府考察団　6 名	見学取材
5 月 12 日	カナダ　Doctors on Tour　23 名	見学取材
5 月 30 日、31 日	5S 勉強会	勉強会
5 月 31 日	シンガポール国立大学　3 名様	見学取材
6 月 6 日	株式会社ニッシリ　未来デザイン部　ユニバーサルテープ実証	モニター
6 月 12 日	日中経済交流センター　中国天津女性経営者　22 名	見学取材
6 月 13 日	中国江蘇省南通市：市長、衛生局・民政局、上海瑞慈メディカルグループ代表団	見学取材
6 月 18 日	介護現場改革促進等事業「令和 7 年度　公開見学会（第 3 回）砧ホーム」　参加	見学参加
6 月 23 日	カリフォルニア大学サンタバーバラ校 東アジア学部	見学取材
6 月 24 日	オランダ：介護関連の視察団、スポーツ＆バイタリティ視察　25 名	見学取材
6 月 28 日	台湾：中台科技大学　看護学科　33 名	見学取材
7 月 1 日	【東京都福祉保健財団】「導入前セミナー～基本編～」	講習受講
7 月 7 日	株式会社ニッシリ　未来デザイン部　ユニバーサルテープ実証ー2	モニター
7 月 15 日	オランダ新聞社「AD」2 名	見学取材
7 月 17 日	東京都福祉保健財団「令和7年度　導入前セミナー~ワーク編~（次世代介護機器編）」	講習受講

7 月 23 日	英国 BBC ワールドニュース：見学、介護職員・利用者様インタビュー	見学取材
8 月 26 日	ベネッセ / 東京都人材支援事業団「介護関係講座」/ 中国：九牧集団有限公司 17 名	見学取材
9 月 12 日	イスラエル大使館経済部 / イスラエル企業：TAILORPATH 5 名	見学取材
9 月 25 日	青少年国際交流推進センター / ドイツ青年団 / 日本青年団 / 内閣府職員 計 24 名	見学取材
10 月 3 日	邦寿会どうみょうじ高殿苑 4 名	見学取材
10 月 6 日	デンマーク王立芸術アカデミー 5 名	見学取材
10 月 9 日	東京科学大学 / オランダ市長・副市長 / ティルブルフ大学 / アヴァンス応用科学大学 / アンフィア病院 14 名	見学取材
10 月 9 日	香港：社会福祉局（SWD）職員開発・研修課 9 名	見学取材
10 月 11 日	東京科学大学 / オランダ、ブラバント州、ティルブルフ市 視察団 7 名	見学取材
10 月 13 日	埼玉大学-1 名	見学取材
10 月 15 日	韓国 高陽市障害者総合福祉館 10 名	見学取材
10 月 15 日	エストニア Nursing Homes 6 名	見学取材
10 月 22 日	広島県立日彰館高等学校 3 名	見学取材
10 月 28 日	ソウル市福祉室長（駐日韓国大使館） 4 名	見学取材
10 月 30 日	中国 Mulan 国際交流機構 4 名	見学取材
11 月 5 日	北京市区人民政府 友好交流代表団（特別区長会事務局）12 名	見学取材
11 月 26 日	埼玉大学 1 名	見学取材
12 月 2 日	ウクライナ リビウ市	見学取材
12 月 3 日	中華民国財団法人 工業技術研究院 産業学院（東海機器工業（株））約 20 名	見学取材
12 月 14 日	シカゴスクール 15 名	見学取材
1 月 13 日	ドイツ新聞社 3 名	見学取材
8～11 月	テクノエイド 07-A01-B06：SHARP AI介護機能訓練トレーナー	モニター
11 月 15 日	テクノエイド 07-A06：株式会社キョウエイ VIMOS 見守りセンサー	モニター

10～12 月	テクノエイド NEW07-B07：株式会社 G.com R&M 元気 de 安心システム・安心睡眠センサー	モニター
10月17日～1月23日	テクノエイド 07-C06：株式会社トレリハ トレ pro	モニター

◆デイサービス

認知症予防プログラムへの取り組み

・ゴーヤカーテンづくり

・ベランダ菜園

本年度も昨年に引き続き利用者様へのプログラムの一環として、認知症予防プログラム：ゴーヤカーテンづくり、ベランダ菜園に取組みました。

種を蒔くことから始め、発芽し、蔓が伸び、つぼみをつけ、花と開花していく様は利用者を活気づける良質なプログラムです。

本年度は、猛暑による影響から成長途中で干からびてしまった実も多く、今後は暑さ対策を検討していきます。









収穫に喜ぶ利用者の皆さま

（9）地域公益活動

①東京子育て応援事業

平成 28 年 6 月～平成 30 年 3 月末の 2 ヶ年にかけて、東京都の助成事業「東京子育

て応援事業」に取組んできましたが、助成期間を過ぎた後も継続して運営してきました。

平成 30 年 4 月からは、法人の独自事業として「子ども英会話教室」を開催し「子どもそろばん教室」「子ども食堂」と併せて、地域の子どもたちの安心・安全な居場所づくりとして役割を果たしていきます。

令和 3 年度以降は、法人独自の事業として取組んできました。本年度は、子ども英会話教室への企業ボランティアの参加が大変多く、子どもたちはボランティアとの交流の中で、英会話や食事を楽しんでいます。子育て応援事業の目的である「豊かなコミュニケーションと、食育」は、様々な支援のかたちで実施されています。

【実施状況】　令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月末

※子ども食堂は令和 5 年 4 月の英会話教室・そろばん教室より再開しました。

〇新とみ　子どもそろばん教室　　12 回開催　述べ生徒人数　　87 名
延べボランティア人数 21 名

〇新とみ　子ども英会話教室　　12 回開催　延べ生徒人数　　119 名
延べボランティア人数　73 名

令和 7 年度は、子ども英会話教室・そろばん教室は月 2 回開催、あわせて「子ども食堂」も実施しています。新とみでは英会話教室は、延べ生徒人数 119 名、企業ボランティア・地域ボランティアは延べ 73 名の方にご協力を頂いております。またそろばん教室では、延べ 87 名の生徒が参加しています。

子ども英会話教室･そろばん･みんなで食事



ゲームで英会話



利用者様とのコミュニケーション



5 年生のお姉さんが教えています







The Chicago School の学生さん 15 名とのクリスマス会（「篠原欣子記念財団」様から助成していただきました）

５．訪問ヘルパーステーション

（1）はじめに

平成 28 年 3 月 1 日、新とみ併設として「ウィング訪問ケアステーション」を開設しました。本年度も新規利用者の開拓に力を入れましたが、移動時間の効率性・ヘルパーの負担軽減・業務効率を考え、近隣でのサービス開拓に注力いたしました。

また、本年度は訪問職員に退職者が出たため訪問件数も調整があり、売上にも影響がありました。

１．サービス提供時間　　8 時 30 分～18 時(時間外については応相談)

２．実施地域　　中央区・港区・千代田区・江東区

３．サービス内容　　身　　体：排泄介助、オムツ交換、食事介助、口腔ケア等

生活援助：掃除、買い物、デイサービスの送迎支援等

４．本年度利用者実人数　　**370 人**　　昨年度　359 人

５．新規利用者数　　**23 人**　　昨年度　25 人

表 10　　要介護度別利用者状況

要介護度	6 年度利用人数	6 年度延人数	7 年度利用人数	7 年度延人数
要支援　1	46 人	234 人	49 人	235 人
要支援　2	75 人	422 人	86 人	526 人
要介護　1	108 人	1,164 人	49 人	348 人
要介護　2	64 人	533 人	115 人	1,131 人
要介護　3	40 人	412 人	42 人	475 人
要介護　4	25 人	476 人	18 人	375 人
要介護　5	1 人	2 人	11 人	89 人

① 利用者の状況

表 10 にあるように、要支援から要介護 5 の利用者まで、生活、身体介助と幅広いニーズがあります。要支援の利用者には、利用者の自立支援を促す援助を行うことが重要であり、質の高い援助技術が求められます。

在宅においては、介護度の高い利用者が訪問介護サービスを利用しながら在宅生活を維持しており、利用者はもとより、家族の生活を支える上でも訪問介護は重要な役割を果たしています。

今後、訪問看護、訪問診療等様々なサービス提供事業者との連携が不可欠であり、情報共有を図りながら、清潔かつ安心・安全な在宅生活の維持に努めます。

②地域・在宅の課題

・在宅における、劣悪な療養環境の問題

・認知症状の進行におけるもの盗られ妄想による金銭トラブル

・近隣住民とのトラブル

・家族の介護ストレスによる心疾患

これら地域・在宅における課題は、訪問ヘルパーが関わるケースも多々あり、研修を始めとした教育は必須であり、質の高いサービス提供が急がされます。